

○白井佳代¹・三澤知央²

ジャガイモ夏疫病菌 *Alternaria solani* による貯蔵塊茎腐敗の国内での確認

Shirai, K., Misawa, T.: Confirmation of Storage Tuber Decay of Potato Caused by *Alternaria solani* as the Pathogen of Early Blight of the Plant in Japan

2010年4月、北海道北見農試の貯蔵ジャガイモ塊茎に腐敗を認めた。塊茎表面に生じた直径1cm程度の類円形、灰黒色の病斑が拡大・融合・陥没し、深さ0.5～2mmまで褐変した罹病皮層部にはコルク化も認めた。病斑から高率に分離された菌株は灰～灰緑色のPDA菌叢を形成し、黄～橙色の色素を産生した。PCA上で形成された分生子は単生、2～3本に分枝する89～225 μmの細長いbeakを有し、本体は長楕円～倒棍棒形、71～120×19～25 μm、1～2縦隔壁、6～10横隔壁であった。菌株の分生子懸濁液を塊茎に噴霧接種すると、有傷でのみ原病徴が再現され、接種菌が再分離された。ジャガイモ葉への噴霧接種では夏疫病斑を形成し、ニンジンとネギの葉には病原性は認められなかった。以上の形態的特徴と病原性より、分離菌を夏疫病菌 *Alternaria solani* と同定した。本菌による貯蔵塊茎腐敗は海外では報告がある。国内での確認は本事例が初めてである。

(¹道総研北見農試・²道総研道南農試)